

賃金・労働条件確定交渉

産休前加配や事務・栄養の臨任同一校継続配置で前進

一月二八日、要求実現を求める高い関心の中、地公労の第2回交渉が行われました。交渉開始時には、用意された座席がすべて埋まっていた。

前回交渉では、当局から勤勉手当の差別支給が逆提案されました。これは人事委員会が勧告した勤勉手当の0.10月分引き上げの内、0.01月分を原資に差別支給をするという提案です。全員の勤勉手当から剥がした分を、「優秀な職員」3割に上乗せして支給するというもので、職場のチームワークを崩すことになりかねません。

冒頭に、地公労小澤議長は「差別支給を撤回しなければ、第二回交渉をすることができない」と、見解を述べました。それを受けて当局は逆提案を撤回したため、第2回交渉が始まりました。

参加者からは、未配置・未補充でいつまでたっても欠員補充が来ない悲惨な状況や、交通指導などPTAに係る子育て休暇事由拡大の訴え、3年連続で別の臨任事務職員が着任した事例から臨任同一校継続配置を求める要求など、切実な発言がたくさんありました。それらに対し、当局からは次のような回答がありました。



第2224号
編集兼発行人
埼玉県教職員組合
情報宣伝部
さいたま市浦和区高砂
3-12-24教育会館内
電話048(824)2511
(一部10円)
毎月15日発行
(組合員の購読料は組合費に含む)

▽埼玉教組へメール
▽埼玉教組HP

（再任用は0.05月分）
▲会計年度任用職員については、来年度から改定
▲会計年度任用職員の期末手当について、改定は難しい

（来年度から）
◎（事務職員など）原則2級に格付けられている再任用短時間勤務者を、3級として任用できるように検討

休暇等について

（来年度から）
◎年休取得単位について、30分単位でも取得できるように検討
◎勤続40年職員の新たな職専免について検討
◎結婚休暇を1年まで、永年勤続職免を2年までに、それぞれ取得期間の延長を検討

未配置・未補充の解消について

（来年度から）
◎教職員の未配置・未補充解消のため、「産休前加配」（先読み加配）について検討

教職員の働き方について

◎60歳超教職員の人事評価実施に当たっては、適切な運用及び評価結果の活用を検討。人事評価に係るこれまでの経緯を踏まえ、引き続き丁寧な組合と協議する。
◎新たな研修制度については、受講者の負担軽減の観点にも十分配慮



しながら、これまでの回答を踏まえ、担当課において引き続き誠意を持って組合と協議する。

（来年度から）

◎事務、司書、栄養職員の臨任同一校継続配置について検討（最長2年間）
◎高齢者部分休業の後補充の配置について、フルタイムを含め検討
◎結婚休暇や扶養手当などについて、同性パートナー等も対象にすることを検討

子育て休暇の事由拡大や会計年度任用職員や再任用者の処遇改善、定年引き上げの制度設計、新たな研修、60歳超の人事評価など、交渉課題はたくさんあります。今後とも積極的な参加をお願いします。

今後の「賃金・労働条件」交渉課題
埼玉教連（定年引き上げ）交渉
埼玉教連（60歳超の人事評価）交渉
埼玉教連（「新たな研修」制度）交渉

「教育署名」 埼玉県議会に請願

過去最大の小中学校の不登校児童・生徒、高校の不登校やいじめ件数も増加しています。この要因について、文科省はコロナ禍での生活リズムの乱れや友達関係が築けないことをあげています。教職員が一人ひとりの子どもに寄り添い学習支援や生活指導を行うためには、一刻も早い35人以下学級が必要で、

コロナ禍で家計所得が減少し、物価高騰もあわさり、家庭の経済状況は厳しくなる一方です。そんな中、学校給食の無償化に踏み出した市町村自治体も少なくありません。埼玉県も子育て支援・経済支援として、学校給食の無償化をはじめ、給付型奨学金の拡充、高校生の1人1台端末の公費負担に踏み出すことが望まれます。

特別支援教育が始まった2007年度4671人であった特別支援学校の在籍児童生徒数は、昨年度は1.7倍の7916人となりました。計画的な特別支援学校建設の要望は大きなものがあります。

この状況を改善するために、埼玉教組は県内各地で集約した33115筆（埼玉教集約分含む）の署名を添えて、「2022年度ゆきとどいた教育をすすめるための請願」を12月2日に埼玉県議会に行いました。紹介議員の要請を文教委員会所属の各党派議員を通じてお願いしたところ、請願を引き受けていただいたのは、共産党の県議会議員6人でした。次号で、12月県議会における請願審査結果をお伝えします。

県に給食費無償化など保護者負担軽減を求める永山美子さん
（越谷市教組）11/22



今年の教育全国署名は 245万筆余りの集約 12/9



最近、通勤時間にスマホでポイシーをよく聴いています。中でも

よく聴いているのは「歴史を面白く学ぶコテラジオ」という番組です。この番組を聴いていくづく感じることは、「楽しそうに話すことは大事だな」ということです。楽しそうに仕事をしている人を見ると、「その人」に魅力を感じるだけではなく、「その仕事」にも魅力を感じます。それは誰にでも、どの仕事にもあてはまることだと思えます。最近、教員採用試験の倍率が小学校で2倍を切りました。傍から見ていて「先生って忙しそうだなあ」「先生は大変だなあ」と思われるようなら、教師を目指す人が減るのも当然です。私たちが楽しく仕事をできる環境であれば、教師を目指す人もきつと増えていくはずですよ。働き方改革は私たち自身のためでもあります。これから教師になる人たちのためでもあります。今受け持っている児童・生徒が教師になる時までは改善したいですね。（え）

みんな入ろう！ 加入者の助け合いの総合共済

ホームページからもお申し込みできます！

総合共済

全国のなかまの助け合い

毎月加入 **600円** 掛金月々

退職時には掛金総額が給付

結婚・出産などの人生の節目にお祝い給付

全教共済



「入っていて安心」
全教自動車保険
川村 昇
(むさしの保険事務所代表取締役)



早いもので12月。新型コロナウイルスの感染拡大が収まったわけではありませんが、久方ぶりに行動制限のない年末年始を迎えます。この機会に帰省や初詣などお出かけの計画をしている方が多いかと思えます。

お出かけの際にとりわけ気を付けていただきたいのが、駐車場のトラブルです。

弊社でご対応させていただいた事例からいくつかご紹介いたします。

1つ目は、駐車場の空きを探して前方の注意がおろそかになり、前方で停止していた相手車に追突した事例。ノロノロ運転が続いているとつい前方の動きに対しての注意も怠りがちになります。

2つ目は、駐車場の通路での出会い頭の接触。双方の急ぐ気持ちから「我先に」行こうとして接触してしまう事例です。駐車場内では特に小さいお子様も死角から飛び出ることがあるので気持ちに余裕を持って走行していただきたいと思えます。

3つ目は、駐車場でバックした際に後続車に接触した事例。この事例は、バックした側が退職教職員の方で、相手方は弁護士を入れてきましたが、責任割合は30…70で相手方の責任が重い形で示談となりました。意外に思われたかもしれませんが、駐車場内は、車を止めるための空間です。そのため、方向転換や駐車スペースにバックを入れることが想定されていますので、通路を進行する車はそれを想定して、車間を詰めない様にとを求められています。また通路が広めに取られている駐車場もありますが、基本的に1車線と考えると追い越したり、並びかけたりすることはできません。

またドアを開閉する際、隣に駐車中の車にぶつかった場合、駐車スペースから出ようとした際に早くハンドルを切りすぎて隣の車にこすってしまった場合など損傷が軽微であったとしても警察への通報や駐車場の管理者にアナウンスをしても必要な対策を講じ、保険会社にも連絡をいただくとお願いいたします。立ち去ってしまい防犯カメラ映像等で発覚しますと「当て逃げ」として処理され、解決が難しくなります。

よりよい新年を迎えられますよう安全運転でお願いいたします。

連絡先…むさしの保険事務所 048(833)1918

教育文化 研究所 コーナー

教育のつどい埼玉集会の分科会「子ども・若者の交流」には、9つの高校、2つの大学から36人の若者が参加。

自分の課題と向き合おう

生徒会や学校を良くする会、私学助成金の増額を求める署名、平和問題など、様々な課題で行動する高校生たちが、各々の活動をパワーポイントを使って紹介していました。制服のスカートとズボンに男女とも自由選択にさせた県立高校の生徒会の生徒は

「『ツープロック』禁止撤回や女子トイレ混雑解消のために活動しているそうです。休み時間にスマホ使用を認めてほしい、私学でもお金の心配なく学びたい、政府は核兵器禁止条約の批准を、と訴える高校生たち。」「なによりも高校生自身が抱える課題を解決するための道筋を自ら真剣に考え、行動している姿に感動しました。大人はこの声に真摯に耳を傾けるべきです」分科会参加者の感想です。

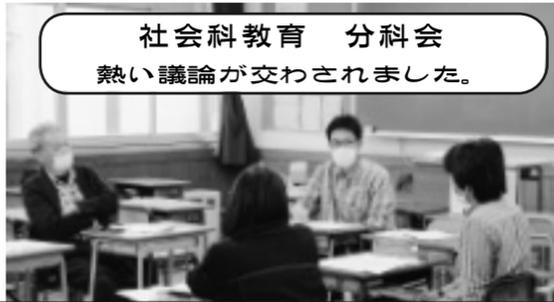
11/28には上尾市立大石中学校で「沖縄を考える」オンライン

「沖縄を学ぶ際にはそこで暮らす人々に思いを込め、自分たちも当事者だという認識が必要。埼玉の子どもたちにも未来への思いを語ってほしい」と依頼し実現しました。教師の主体的な取り組みと自主編成のねらいが伝わってきます。

(事務局長 山内芳衛)



子どもの発達と学力 分科会
今年も青年しポーターが活躍してくれました！



社会科教育 分科会
熱い議論が交わされました。



外国語教育 分科会
大学生も参加し一緒に学ぶことができました。

教育のつどい2022埼玉集会

11月13日 @ 県立与野高校



全体会
なんと3年ぶりの全体会！
席が足りなくなっていました。



子ども・若者たちの交流 分科会
各地からたくさんの高校生が参加してくれました。

